

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290900677		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム船橋坪井東		
所在地	千葉県船橋市坪井東5-23-6		
自己評価作成日	令和1年11月14日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは外に出る機会を少しでも多く取り、いつまでもご自分の足で歩けるようにと毎日の散歩を徹底して行っております。近くには大きな公園もあり、子供たちや大人が大勢いらっしゃり地域の方々とのコミュニケーションの場となり私たちも一緒に参加させて頂いております。散歩は全員が参加出来るよう曜日毎に参加者を決めております。また、施設に入居していても当たり前な生活が送れるようにと毎月の外出レクをスタッフが担当となり企画し入居者様が楽しむことが出来るよう活動しております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生		
所在地	千葉県習志野市東習志野3-11-15		
訪問調査日	令和1年11月25日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所から4年半と比較的新しいホームである。閑静な振興住宅地の中に位置し、近くの坪井近隣公園には公民館もある。「残存能力を活かした支援」としての毎日の散歩では、この公園ルートを使つての地域とのふれあいの場所となっている。固定観念を持たずに利用者と接することで、嫌いなこと、好きなことなどの新しい発見に努めている。家族アンケートでは、「ホームは気兼ねなく行きやすい」との項目では高い評価があり、開かれたホームとなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議や朝礼、夕礼の際には必ず運営理念の唱和を行い全スタッフに理念の共有、実践しております。	理念は玄関および各階の事務室内に掲示している。利用者への「接遇」という観点から、「あいさつ」についての研修を行うことや、1Fと2Fのスタッフ間のコミュニケーション強化のために、合同事業やアフターファイブでの交流機会を増やしてサービスの向上を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	社会福祉協議会や在宅支援センターと協力し、地域の夏祭りや高齢者に向けた認知症予防説明会などを地域で開催しております。	地域の夏祭りには参加しているが振興住宅地のためイベントが少ない。毎日の散歩では近所の公園に行き、利用者らが子供達に声掛けをしている。在宅支援センターと連携して来年2月の認知症予防説明会を契機に、より多くの地域住民とのかわりを図ろうと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高齢者に向けた認知症予防説明会の開催を行う予定です。また、認知症サポーター養成講座などの取り組みも積極的に行う予定です。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度の運営推進会議を開催し、ご家族様・行政との連携を通じてサービス向上に活かしております。	運営推進会議は2ヶ月に1回の開催を予定しており、直近では10月に実施した。職員、在宅支援センター、家族が参加して、ホームの状況や活動、事故、今後の予定などの報告がある。この会議での家族からの意見・提案もあり、この場は新たな改善点が発見できる良い機会としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	指導監査課への必要連絡を都度行い、在宅支援センターとの連携を通じ地域での取り組みの参加を行っている。	指導監査課とは事故報告や管理者変更などの運営に関することでの連絡や相談が多い。在宅介護支援センターとの関わりは、運営推進会議への出席をはじめ、地域での高齢者向けの認知症予防説明会での連携があり、今後はより一層の連携を密にして地域交流を拡大する予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に一度の研修・自己評価を行い、身体拘束廃止委員会の開催を行っている。	3ヶ月毎に研修を実施し、「虐待・不適切ケアと身体拘束チェックシート」も3ヶ月毎に行っている。チェックシート実施からの「身体拘束委員会」は従来のマネージャ、リーダー中心のメンバーから、全体会議の中で共有し全職員が気付きを得られるように改善された。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修やチェックシートを使い日々のケアを務めております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的な研修の他に、現在入居中の利用者様の成年後見人より話を聞くなどしております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書はすべてを読み上げて上で納得して頂き署名をお願い致しております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的なケアプランの説明、面会時日々のご様子の説明、必要時カンファレンスを行いご家族様からのご要望等を支援に活かしております。	ホームからは、行事、ケアプラン、今月の医療、入浴状況、個別の様子など盛りだくさんの情報を「お便り」として毎月発送している。ケアプランの更新時や面会時における積極的な声掛けで家族の意見を聞くように努めている。大きな行事には家族の参加を得て、同日の運営推進会議への参加を促している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や個別面談を通じてスタッフからの様々な意見や提案を反映するよう対応している。	会議以外に会社としての職員アンケートも活用している。また、今年度からは年3回のホーム長と職員との個別面談が全社として義務付けられており、「悩み、遣りたい事、職場に対する意見や提案など」を本音で語れる機会を持ち、離職の防止にも役立っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	無理のないシフトを組み、仕事だけではなく人間観やプライベートな悩みなども相談できるような環境作りに努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修のみならず、外部の研修にも参加を呼び掛けております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	船橋市内のグループホーム協議会に登録し交流を図っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初は他の方以上に話す機会を多く取り、1日でも早く不安を取り除けるように努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族会を開催し、他のご家族とも交流できる機会を設けております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人と話す時間を多く取り本人から聞いた話をご家族様に確認しております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護現場ではなく、一緒に生活しているという家庭的な環境作りに努めております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	小さなことでもご家族と相談しながら進めております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様との関係が今まで通り行えるようにと、ご家族様と相談し外出・外泊などを勧めている。 また、レクなどイベント時も積極的にお誘いしている。	踊りなどの以前参加していたサークルの友人が訪れることがある。家族の支援を受け外出や外泊を多くする入居者もいる。個人からの直接の要望だけでなく、日常の会話やテレビ番組から話題になれば、個人レクの機会をつくり連れ出すなどの支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同で行えるレクやスタッフを交えての会話を多く取るように努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後、必要な事やお困りごとがあった際相談、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族様より生活歴を聞き参考にしている。入居者様の趣味、特技等を活かした生活ができるよう対応している。	入居時のアセスメントシートに記載された事項をベースに情報を共有化している。日々の生活の中やカンファレンス、毎日の申し送り時に気付いた事を記録し、利用者の表情や行動から意向の把握に努めている。カラオケで、知っている歌なのか手拍子をたたいていたことは、普段見られない姿であることも一例である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	会話の中から既往歴を聞いたり、ご家族様に確認しながらケアに生かしております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る事は可能な限りご自身で行って頂き、これまでの生活リズムを変えない様に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフや家族だけではなく、医師や看護師、薬剤師など様々な関係者からご意見を頂き作成しております。	日々の会話や申し送りノート、介護記録の中で強調したい時は赤字で書き、3か月毎の介護計画の見直し時に往診医や看護師、薬剤師、マッサージ師の意見と合わせて反映するようにしている。その他家族からは、郵送や電話、来所時に個別に面談し、利用者が何をしている時が一番楽しいか等を聞いて参考にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの記録の他に会話の中で聞いた様々な情報も共有できるように記録しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	スタッフ・ご家族様と相談し、常に新しい試みを模索し、挑戦しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアを積極的に利用させて頂いたり、地域のイベントには毎回参加させて頂いております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関と連携し、緊急時でも受け入れ可能な病院をいくつか確保しております。	かかりつけ医に受診している利用者は、内科が3名で精神科が1名おり、他の利用者は、月2回往診に来る契約提携医に診てもらっている。看護師は週1回来所するが、提携医同様24時間連絡が取れるようになっている。かかりつけ医の受診は原則家族に同行してもらい、その際ホームでの情報は書面で伝えてもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間、看護師と連絡が取れる体制になっており、常に情報の共有に努めております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院可能な病院と協力医療連携を行っております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や必要時の際ご家族様とのカンファレンスを行い方向性、支援方法等を確認している。	重度化や終末期に関しては、入居時に説明し了解を得て契約をしている。看取りの際になると、家族の心情も変わって来るので、再度家族と相談して方針を決めている。看取り等に関する研修は、状況に応じて必要時にマニュアル等を基に実施している。看取りチームとしては、居室担当者やユニットリーダーが中心となり全員で支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な研修の他に、消防署に依頼し救命講習を行っております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2回の消防訓練を開催し、全職員に避難・誘導方法の共有を行っている。	防災訓練は年2回実施している。今年度は5月に実施し、1月に消防署立会いの下、火災による避難訓練を実施する予定でいる。防災に関する研修は、毎月の全体会議の中で年に1回は行うことになっている。内容は、いざという時のマニュアルを使用し、緊急連絡体系や緊急対応、事故対応、事故予防を中心に行っている。	前年まで災害時の協力体制として、近隣の24時間営業のフィットネスクラブとサービス付き高齢者向け住宅とお互いに申し合わせを行っていたが、管理者の引継ぎがなかったとの事であり、再度同申し合わせをすることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄介助時、扉を閉める・大きな声で排泄の有無を確認しない、入浴支援は出来る限り同性介助とするなど自尊心を傷つけない声掛けや対応に心掛けております。	入浴時や排泄時には、扉を閉めるとか大きな声を出さない、同姓介助を行う等プライバシーや自尊心を損ねない言葉かけや対応をしている。トイレへの誘導は、「ちょっと散歩(花見)に行きましょう」など、その時々名称を変えてさりげなく行っている。管理者は、自尊心やプライバシーに関して常に「相手の立場になって考えなさい」と指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ホーム独自の運営理念にて、自己決定の支援を掲げて実践しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様を最優先に支援し、出来る限りおひとりおひとりの希望に添えるよう努めております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出掛ける際には洋服をご自分で選んでもらい、女性の方にはお化粧の支援も行っております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在調理済み食材を導入しているため、食事の盛り付け・洗い物や片付け等を一緒に行うようにしている。	食事を楽しむ工夫としては、献立を利用者に書いてもらって皆さんに知らせたり、ホーム内でケーキを作って楽しんでいる。毎月1回程度は、皆で回転寿司に行ったりカフェにケーキを食べに行ったりしている。外食をする際は、利用者がチラシを見て決めたり、スタッフがおすすめの店を提案したりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は細かく記録し、いつもと変わった様子はないか気を付けております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い口腔内の清潔に気を付けております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつなどは出来る限り使用せずに、トイレでの排泄を支援しております。	現在、布パンツ利用者は5名、リハビリパンツの方は13名で夜間だけおむつの方は4～5名である。健康管理表を見て排泄パターンの間隔を把握し、頻繁に誘導することでリハビリパンツから布パンツへ変わるように排泄に向けた支援を行っている。排便がスムーズになるために、水分摂取や朝の牛乳、ラジオ体操、午前・午後の散歩などに心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬を使用せずに排泄できるように、日々の生活や食事・水分摂取などに工夫しております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限りご自分のペースで入浴できるように努めております。	入浴は週に2～3回行っているが、無理強いはいないようにしている。入浴が嫌いな方には、時間を置いて声掛けをしたり、日にちを変えたり、別のスタッフに声掛けをしてもらい気分を変えて入ってもらっている。「良い所へ行きましょう」とか「酒を飲みに行きましょう。あれ！こんな所に風呂が有る。さっぱりしてから飲みに行きましょう」などと声掛けをして入浴してもらうこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の生活や生活習慣などを考慮し、夜間ゆっくり休めるように工夫しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報や往診時の指示などをまとめたファイルを作成し、共有を行っております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	おひとりおひとりに役割を持って頂けるように支援しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩の他に、季節ごとのイベントも多数行っております。	散歩コースは、500m程離れた公園に行くことが多く、日光浴を兼ねて30分位で帰れるようにしている。外出支援としては、季節ごとのイベントとして、お花見やいちご狩り、初詣等を行っている。個別支援としては、利用者の希望を聞いてスタッフと一緒に寿司を食べに行ったり、カラオケボックスへ歌いに行ったりしている。一泊で自宅へ帰る方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	散歩の途中での買い物や、本人希望の買い物などもご家族様と相談し出掛けております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用は申し出がございましたらその都度対応致しております。手紙、年賀状などの支援も毎年行っております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の照明、空調の調整の他にスタッフものんびりした雰囲気を作るように心掛けております。	リビングは生活の場であるため、こまめに掃除をして臭いのない場でゆっくりテレビを見るなどして、決してあわただしくない様に心掛けている。また、動線上には安全念を考慮して物を置かないように注意している。トイレの表示や居室の表札は誰でもわかるように見やすくしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同スペースのテーブルは決まった席を設けておらず、その都度、色々なかたと交流が持てる様に支援しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具などを持ち込んでもらい、見慣れたものに囲まれ落ち着いた生活が出来るように心掛けております。	居室は、タンスとエアコンだけが備え付けで、その他は利用者の使い慣れたものを持ち込んでもらっている。利用者はベットやテレビなど、今まで使用していたものを持ち込むことで「自分の部屋」としての意識が出来、落ち着いて暮らせるようである。体調管理のために加湿器は持ち込んでもらっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示や居室の表札など見やすく表示し、歩行ルートには物を置かないように努めております。		